

RUBeC 演習を通して

藤田 卓朗

Takuro FUJITA

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は2015年8月15日から2015年8月31日にかけて龍谷大学北米拠点(RUBeC)において行われたRUBeC演習に参加し、自身の研究論文を英語の学術誌に提出できる内容までに仕上げるテクニカルライティングの授業と、国際学会で発表できる内容を目的としたプレゼンテーションの方法を学びました。

また、アメリカの企業視察と大学訪問もこの期間中に合わせて行いました。

2. 授業について

2.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングの授業では、冠詞・前置詞・接続詞など基礎的な文法から学び、それぞれの使い方を理解し、自身の研究論文を毎回の授業でより伝わりやすい文章へと修正していきました。英語の文法だけでなく、原因と結果を明確に示し、読む人により理解してもらえ文章を作成する注意点も解説してもらい、今後日本語で学術論文を書く際でも参考にでき、非常に有意義な授業となりました。

2.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションの授業では単語の発音や抑揚のつけ方を学び、英語による発表においても伝えたい要点を相手にしっかりと伝える方法を学び、理解しました。

毎回の授業を通して学んだ点を生かし授業最終日にはクラス内で英語による研究発表を行い、自身の英語の語学力がどの程度向上したのか改めて知ることができました。

今回の演習中の授業はすべて英語のみで会話を



図1 プレゼンテーションの様子

し、相手にどのような英語を使えば自分の会話の意図が伝わるかを毎回考えることができ、日本に帰ってからもどのような勉強をすれば、英語を話せるようになるか気づくことができました。

3. 海外での生活について

今回のRUBeC演習ではホームステイで2週間生活しましたが、初めての海外での生活ということもあり戸惑うことも多くありました。演習中のカリフォルニアは深刻な干ばつ問題に直面しており、シャワーの時間は5分までで、洗濯は週に1回までと言われ、ホームステイ先それぞれのハウスルールがありました。

休日は観光に行ったり、外食をしたりすることで様々な場面で知り合った人と英語で会話をする機会がありました。自分が何を学びにアメリカに来ているのかを聞かれるだけでなく、日本の文化や観光地について質問されることも多くあり、日本にいるときには気づくことのなかった日本と海外との違いを改めて認識することができました。日本に帰ってからも留学生や海外の人と会話をする機会はあると思うので、これからは自分から積極的に話しかけ、自身の英語の語学力向上に結びつけたいと思います。

4. 企業視察

カリフォルニア州サンタ・ローザに本社を置き、試験・計測機器やソフトウェアを製造する Keysight



図2 企業での集合写真



図3 デービス校での様子

Technologies 社の視察をしました。製品の開発から製造まで全てを行い、あらゆる電子機器の開発に欠かせない電子部品計測器を生み出しています。今回の企業見学では計測器に用いる集積回路の製造工程、実際に製品となる外枠の3次元CADとマシンニングセンタの工作室を見学し、大学の講義だけでは得ることのない経験ができ、とても有意義な内容となりました。

5. 大学訪問

カリフォルニア大学デービス校を訪問し、デービス校での博士課程取得方法、また、研究室を見学しデービス校の学生がどのような研究活動と生活を送っているのか、実際に現地の教授や学生とコミュニケーションをとって知ることができました。デービス校での博士課程取得には平均4.9年かかるが、学生の多くは博士課程に進学すると聞き、研究に対する熱意の高さに驚きました。

6. おわりに

今回の RUBeC 演習に参加することで自身の英語の語学力向上をすることの重要性について改めて認識することができました。研究に関してだけでなく、就職活動を行うにあたって、最近のエンジニアは市場規模拡大のため、日本だけでなく海外でも技術を学び、また、技術を教える必要があるなど、グローバル化が進んだ環境の中でも自分が活躍できるように英語は学生のときから不自由なく話せるようにしたいと感じました。

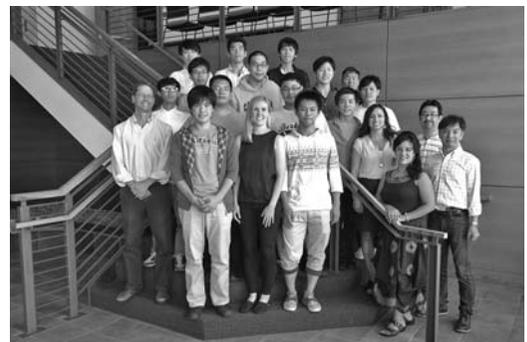


図4 RUBeC 演習修了後の集合写真